

# らしんばん

## 議会報告

令和元年 9月議会号



発行日 / 令和元年 10月31日

発行：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

### 目次

ハイライト	P1
1. 県議会9月定例会開催(概要説明)	P1
2. 常任委員会「厚生委員会」での主な論戦から	P2
3. 9月定例会一般質問登壇	P2
4. 静岡がんセンターの先端医療とケア	P3
5. RWC2019 日本対アイルランド戦観戦	P3
6. 視察・研究報告、国へ提出される意見書	P4
7. 地域の課題と進捗状況、ホットなつぶやき	P4

### ハイライト



社会生活への適用が困難な子供達を支える県立吉原林間学園が半世紀ぶりに立て替えとなった。



令和2年度の富士市から県への要望について、知事に面談を求め地元選出議員4人が市長に同行。



清水町にある県立看護専門学校に4月から助産学科が誕生。ロボットを使った実習に感動。



敬老の日、川勝知事に同行し、富士市森島の100歳を迎えた望月敏子さんを訪問しお祝いを述べた。



RWC2019がエコパスタジアムで開催。日本対アイルランド戦で日本が勝利し、「静岡の衝撃」を直に観戦。



東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技テストイベントのMTB競技を視察。開催まであと1年弱！

## 1. 県議会9月定例会開催(概要説明) (9月17日～10月10日まで開催)

現行総合戦略は今年が最終年度。本定例会では、**次期総合戦略策定**に向けての議論が始まりました。

**子供の安全確保対策**では、県全体の緊急対策を策定し、自主防犯パトロールや登下校時の子供見守り活動、私立学校や民間児童福祉施設のスクールバス等への防犯用品の整備等の補正予算を盛り込みました。

**地震・防災対策**では、県総合防災訓練にて、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、旅客・観光客を対象とした避難誘導訓練を実施。また、期限が近づく、昭和55年度に施行された地震等大災害対策支援のための「地震財特法」の延期を国に働きかけます。

**多文化共生社会の実現**では、外国人児童の日本語指導の充実、県防災アプリの多言語化、特定技能制度関連分野の説明会等が補正予算に盛り込みました。

**産業成長戦略**では、ICT人材の確保・育成の実施、マリンバイオテクノロジーを活かした産業振興支援などが進められます。

**農林水産業の競争力の強化**については、お茶に関し、品質向上と低コスト化を図るための製造機械等の導入や、飲料メーカーが求めるGAP認証(生産管理)取得、需要に対応した生産体制への転換を加速化し、県茶業研究センターが開発した「香り緑茶」等の新商品開発や販路拡大の支援を進めます。**農業人材育成**のための農林環境専門職大学は、文科大臣から設置が認可され、運営するための条例が制定されました。

**豚コレラ対策**では、隣接する複数県でも発生し、本県も豚コレラ対策対象地域に指定されたことで、野生イノシシの監視捕獲や感染確認検査などが強化されます。

**不漁が続くサクラエビ**については、資源管理の徹底や漁業者等への経営悪化に対する支援策が補正予算に盛り込まれました。また、駿河湾での不漁をきっかけに、「森、川、海」の深いつながりを研究する研究会を発足させ、今後、関連の調査を行っていきます。

**ラグビーワールドカップ(RWC)2019**は、9月20日から44日間開催され、本県のエコパスタジアムでは4試合が開催されました。日本対アイルランド戦は日本が勝利し「静岡の衝撃」として伝説となりました。また、来年開催される**東京2020オリンピック・パラリンピック**では、自転車競技が本県を会場とすることから、テストイベントを通じて課題の検証などを行っています。

**オリンピック・パラリンピックの文化プログラム**では、RWC2019の開催時期に合わせ、本県が誇る文化の詩と現代舞踊と音楽の公演、伝統芸能フェスティバル、抹茶・煎茶の大茶会等のプログラムが展開されました。

**そのほか**、パラサイクリング大会の実施、富士山保全協力金、富士山の保全状況報告書、外国人観光客の受け入れ体制の強化、地域外交、富士山静岡空港、清水港の新たな将来像、沼津駅周辺総合整備事業、リニア中央新幹線の課題等について報告がありました。

**9月補正予算**は、総合計画に基づく経費、当初予算編成後の事情変化に対応する経費等で、一般会計補正予算として、80億3,900万円を計上しています。具体的には、上述した内容のほか、国庫補助金の内示に伴う道路、港湾等の一般公共事業、民生委員・児童委員の活動を補佐する協力員の設置経費、富士山世界遺産センターの機能向上のための改修経費等です。

**平成30年度決算**は10月25日に審議が始まります。

今年度は、県議会厚生委員会副委員長 県医療審議会副会長 党県連組織委員長等に就任

最新の活動情報をブログで配信中。



## 2. 常任委員会「厚生委員会」での 主な論戦から

**審議内容は**、一般会計の補正予算、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う県条例改正、建築工事の請負契約等が議案上程されたのと、報告事項や所管事務に関する質疑が行われました。

また、**静岡がんセンター**についても、決算状況、業務実績、がんゲノム医療の推進、特定行為研修を組み込んだ認定看護師教育課程の開設、消費増税に関する使用料・手数料の改定等を審議しました。

いずれも、原案通り可決すべきものとして全委員一致で決定しました。

令和3年4月1日開校予定の**静岡社会健康医学大学大学院(仮称)**について、今月下旬に文科省に設置認可申請書を提出するため、その申請内容や履修モデル(案)について説明がありました。委員からは、施設整備費や運営費の収支等について質疑がありました。

**民生委員・児童委員の活動支援**として、活動負担の軽減や担手確保のため、協力員制度を導入することになり、その内容や課題等について質疑が行われました。

**介護人材確保対策**では、負担が大きい介護現場での介護士等の定着を促進するため、新たに介護士の負担軽減を図るためのサポーターを育成し、事業者がサポーターを直接雇用するための支援等、県がマッチングを積極的に進めていくとの説明がありました。ただ、資格はないもののサポーターが介護士と同じように過負荷にならないよう配慮するため、何を担うのかを明確にして取り組むべきことを要望しました。

**子どもの安全確保対策**では、一般会計9月補正に「送迎バスへの犯罪用品の整備」があり、その対象となる整備品内容について質しました。県は、不審者防犯対策、被害発生時の応急措置に必要な備品として、ドライブレコーダーやAEDの設置を挙げていますが、犯罪が発生したときに周囲に助けを求める観点が不明であったことから、非常事態発生を知らせる救援体制の取り組みも含め、明確にするよう求めました。

今、大きな社会問題となっている**児童虐待防止**については、11月の児童虐待防止月間の啓発活動について、県民の集いや街頭キャンペーン、ポスター掲示、リーフレットの配布等について詳細な取り組みを質しました。また、児童相談所と警察との合同研修会を開催し、安否確認や保護を目的とした住居への立ち入り(臨検・捜索)などの演習内容について説明を受けました。

今回の委員会では、上程された議案や報告に関する質疑のほか、国が示した**公立・公的病院の統廃合**について、国の考え方や課題等を質す委員が多く、地域医療にとって国と地方の考え方に隔たりがあることが浮き彫りになりました。この件については、地方の実情や意見を国に伝え、懸念の払拭等に努めるなどを要望し、今後の推移を見守っていきたいと思います。

## 3. 9月定例会一般質問登壇

9月定例会の一般質問に登壇し、**県政に関わる6項目の課題**について、当局を質しました。質問項目は、

### 1. CNF関連産業の集積と課題について(所管:経済産業)

- ①地域企業の新規参入拡大に向けた取り組み
- ②CNFの安全性評価

### 2. サイクルツーリズムの推進について

- ①太平洋岸自転車道における富士海岸の活用(交通部)
- ②サイクリング拠点の整備(文化・観光部)

### 3. 水の事故から子供を守る対策について(教育委員会)

### 4. 避難所におけるトイレの確保について(危機管理部)

### 5. 気候変動対策の取り組みについて(くらし・環境部)

### 6. NPO活動の課題と支援について(くらし・環境部)

**CNF関連産業の集積と課題**についてのうち、**地域企業の新規参入拡大に向けた取り組み**については、県富士工業技術支援センター内に開設したCNF研究開発支援センターの趣旨や効果などについて説明があり、県内企業のCNFへの取り組みの進捗状況報告とともに、私から、CNF関連情報提供や県の支援策などを伝えるコーディネーター機能の拡充を求めたのに対し、県の新産業プロジェクトである、ファルマバレー、フードサイエンスバレー、フotonバレープロジェクトの各コーディネーターとの相互連携を強化するとの答弁がありました。

**CNFの安全性評価**は、食品や化粧品などの直接人体に関わる応用製品も出てきたことや、製造過程での安全性に対する県の認識を質し、食品衛生法や第三者機関による安全性確認、さらに国が進めている安全性評価方法の取り組みなどの説明を受け、今後も国などの動向を注視していくよう求めました。

**サイクルツーリズムの推進**についてのうち、**太平洋岸自転車道における富士海岸の活用**では、国が進めるナショナルサイクルルートにこの区間をどう取り込むかについて、その課題や将来の富士海岸堤防の活用などを目指す県の考えを質し、県では暫定的なルートを設定し、目標とする富士山や駿河湾、伊豆半島の景観を最大限生かした、国内屈指のサイクリングロード誕生に県としても積極的に取り組むことを約束しました。

また、**サイクリング拠点の整備**では、知事から直接答弁があり、田子の浦港周辺を拠点化するための環境について、私の提案に共感していただき、ナショナルサイクルルートである太平洋岸自転車道から地域の魅力が堪能できるローカルルートの結末点としても大きな期待がかかり、関係市町や関係団体と協議しながら開発を進めていくとの答弁がありました。

**水の事故から子供を守る対策**について、水に落下した際の対処方法や自然のリスク、教員の指導法の取得などに関する小学校における安全対策を質しました。私からは、特に、**教員への指導法は専門家の指導**を仰いでいることや、教育委員会が**水難事故防止対策協議会の参画**においては、他人事とせず積極的に連携していくことを求めました。

**避難所におけるトイレの確保**については、災害発生時における避難所での重要性について県全体(県と市町)での認識が高くない現状を捉え、発災直後から復旧過程におけるトイレ整備の進め方など質しました。国の「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」に基づく、市町が行うべ

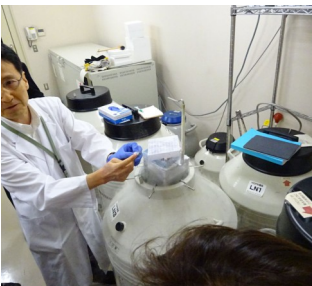
き管理計画の策定とそれを地域防災計画に反映すべき取り組み状況は、県内では35市町中6市町のみで、まだ多くが取り組んでいません。避難所のトイレ整備は、時間も予算も伴うこともあり、県も積極的な支援が必要であり、まずはその基礎となる**管理計画の策定**を促す県の姿勢を求めました。

**気候変動対策の取り組み**については、県はこれまで、地球温暖化防止対策として温室効果ガスの排出削減に向けた取り組み(緩和)を進めていますが、現実には自然災害や農業被害などが顕著になり、これらの事象に(適応)していく取り組みが新たに加わりました。これからは、**緩和と適応の両輪が気候変動対策の柱**となります。ただ、温室効果ガスの削減は今後も急務で、この取り組みをさらに推進していくことを求めました。

**NPO活動の課題と支援**については、近年、NPO法人格を返上する組織が増加していることに対する県の認識と支援策を質しました。NPO法の制定から20年経過し、この間に社会情勢や市民活動も多様化しています。NPO法人を取得するメリット、デメリットはかねてよりありましたが、NPO法人の実態調査は平成26年に行われた以降はなく、最近のNPO法人数の減少という状況を踏まえ、県は今年度、実態調査を実施し、**新たなNPO法人の課題や支援策を検討**するとしています。

#### 4. 静岡がんセンターの先端医療とケア

がんになる確率は2人に1人といわれるようになりましたが、一方で、その治療方法もまた回復も激変しています。がんになったら、どのような治療が行われるのか、誰もが気になる場所ですが、外科手術や薬物療法、放射線治療など、従来の治療方法を基本としながらも、その中身は激変しています。例えば、外科手術ではロボットの導入、薬物療法も副作用の少ない医薬の開発、放射線も陽子線のような高価で保険が適用できないから、患部への正確な放射線照射技術を実現しながら保険適用など、何よりもそれらの治療方法を効果的に組み合わせるなどして、一昔とは大きく変化しています。



冷凍保存された遺伝子試験片を説明する研究員。

さらに、患者本人や家族に対するケア環境も整い、かつての不治の病や告知がタブーとした時代から、医療機関と患者側が病状を共有し、積極的に一体で取り組むことが普通になりました。

静岡県がんセンターは、遺伝子レベルでの治療である「**がんゲノム医療**」を推進しています。遺伝子を調べ、より具体的な治療方法、個人に合った治療が可能と言われるものです。県がんセンターは、令和元年9月19日に、厚生労働省からゲノム医療を必要とするがん患者が、全国どこにいても、がんゲノム治療を受けられる体制を構築するため、がんゲノム医療を提供する機能を有する医療機関として、「**がんゲノム医療拠点病院**」として全国にある34施設の一つとして、県内で唯一指定されました。

これまでは全国に11ある「がんゲノム医療中核拠点病院」との連携の下で行ってきた遺伝子パネル検査の結果分析や、多職種による内容検討、結果の報告を、この指

定により県がんセンターが独自に行うことができようになりました。これにより、県内医療機関等の遺伝子パネル検査に対する積極的支援ができます。



これらが実現できた背景には、平成26年から取り組んできた臨床研究により、この5年間で5,000症例を超える遺伝子情報を解析し、世界に類を見ない規模の日本人がん遺伝子データベースを構築してきたからです。

また、民間企業との共同研究により、信頼性の高い遺伝子パネル検査を安価に提供する体制の構築を目指し、今後は、**薬事承認、保険適用**に取り組めます。これらが実現すれば、がん治療はさらに大きく前進していきます。

#### 5. RWC2019 日本対アイルランド戦

RWC2019のエコパスタジアムで開催された、日本対アイルランド戦を観戦してきました。



日本対アイルランドの熱戦が繰り広げられ、「静岡の衝撃」が誕生。

マスコミ論調は、今回の日本の勝利を「静岡の衝撃」というタイトルで伝えています。

結果は、まさに大金星といえる、19対12の歴史的な見事な勝利でした。この現場に居合わせ、その一つ一つの戦いぶりを一緒に観戦した47,000人余の観客とともに、興奮の80分を過ごすことができ感動的でした。



試合後のノーサイドは、先ほどの激しいタックルが嘘のよう。ラグーマンシップに感動した。

ここでは、報道には載らない私なりの感動を伝えてみたいと思います。

まず、東海道新幹線で新富士駅から掛川駅までの移動では、「こだま」の乗車状況は全席が埋まり、あふれた多くの乗客が通路に立っており、しかも、赤く桜のマークのついた日本チームのユニホームや、緑色のアイルランドチームユニホームを着た外国人の、RWC一色の集団専用列車と言っているような、特別な雰囲気を感じました。



地元第六天太鼓保存会が世界デビュー。4回全試合に出演。

車中では、外国人からの現地までの交通情報の問い合わせをきっかけとした会話も弾み、掛川駅に着いたときには短時間ではありましたが楽しく過ごせたことに大変感謝され下車して行きました。場外での出来事でしたが、少しでも日本の好印象につながればと期待しました。

会場に到着し、開始までの3時間は、周辺のおもてなしゾーン等を見て回り、驚いたことに、私の地元の第六天太鼓保存会による郷土芸能の披露場面に出くわし、演奏の合間には、多くの外国人が彼らと一緒に写真を撮っていました。

さらに、試合直前の選手入場では、彼らの勇壮な和太鼓がエコパスタジアム全体に響き渡り、開始直前の高揚感と重なり、何ともいえない感動に包まれました。

試合中は、まさに興奮のつぼで、生の衝撃は例えようがありません。正直、ラグビーにはなじみが薄かったのですが、この試合を契機に、日本中にファンが増えたことは間違いありません。さらにいえば、会場で試合を観戦した人たちは、国境を越えて、スポーツの魅力がいかに素晴らしいものであることを、心に刻み込んだと実感しています。私たち地元にとっても、この会場で歴史的な偉業が達成されたことは、最大の喜びであり、これからも語り継がれていくに違いありません。

## 6. 議会外の視察・研究報告

### 高齢者・障害者福祉、防災、地域外交



函南町社会福祉協議会の「かなみおでかけサポート事業」。介護保険にこだわらない地域の自主的な取り組み。



若年性認知症を支援する地域密着型ディサービスを提供するNPO法人「WAC清水さわやかディサービス」を視察。



県障害者スポーツ大会「わかふじスポーツ大会」を視察。障害者のスポーツや文化面での活躍を期待し、支える取り組み重視。



青森県海上自衛隊第25航空隊は、海難救助のエキスパート。大災害時の救助支援に大きな力を発揮。



本県と交流が深い台湾嘉義県知事が交代。県議会日華議員連盟による表敬訪問で、今後の交流活動について意見交換。



台湾交通部観光局を表敬訪問。富士山静岡空港への就航増便や本県との観光交流拡大に向けて意見交換。

#### ◆9月議会で決定した国へ提出される意見書

- ① 学校や家庭におけるICT環境の適切な導入に関する意見書
- ② 地震財特法の延長に関する意見書
- ③ 鳥獣被害防止対策の強化を求める意見書
- ④ 性犯罪に関する刑法定見の見直しを求める意見書
- ⑤ 水産業の体質強化を求める意見書

#### ♥ホットなつばき

昭和33年の狩野川台風に匹敵する台風19号が猛威を振るい、伊豆半島に大きな被害が出ました。狩野川台風は、私や家族にとっても運命的な出来事でしたが、その時の多くの犠牲者のためにも、被災を逃れた一人として、防災対策に専念することを改めて肝に銘じました。

#### 県政相談窓口 ♥お気軽にどうぞ！

地域の課題、道路・河川等の整備などについてのご相談窓口です。ご相談いただいた内容については、必要に応じ関係機関と調整しますが、内容に応じてお時間がかかることもありますので、ご容赦下さい。

## 地域の課題と進捗状況（各地の要望等から）



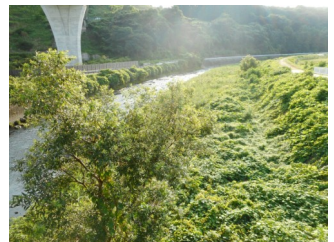
富士市北部、鶴無ヶ淵地域を流れる赤淵川の土手決壊の懸念を払拭するため、地域代表と現地視察。



根方街道沿いの側溝は、道幅が狭いことで常に車両が乗り上げることで、破損が激しい。「どぶ板活動」も重要。



国道1号バイパスの早川交差点は、近くの幼稚園の通園路になっているが、交通事故が心配され、地域代表と検分。



天間地区、新東名高速道路高架橋下の潤井川の堆積土砂除去は、以前より要望があり、再度調査して、県に要望。



江尾地区の根方街道沿いの狭隘部分の拡張について、地元役員から地権者の理解もあり、早急に対応を求められた。



昭和41年元吉原地区を襲った台風26号の高潮による犠牲者の慰霊碑は、近年の台風の巨大化に警鐘を鳴らす。



富士市の2019健康まつりにて、歯の健康を競う「8020」運動の表彰式。92歳で28本の歯を維持する高齢者に脱帽。



須津地区戦没者慰霊祭が開催された。戦争の悲惨さと平和の尊さを考える一時だが、遺族の高齢化が課題。

発行者：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

「県政相談窓口」および「らしんばん」連絡先

静岡県富士市比奈1418番地の2〒417-0847

☎0545-34-0683 FAX.0545-38-0070

メールアドレス himena@tokai.or.jp

ホームページ <http://sumiyoshi.info/>

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/sumiyoshi1956/>

